

【事例1】40才でマイホームを購入したA氏。(奥さん：パート、子供：2人)

生まれ故郷に、30才でUターンしたA氏。

実家からの通勤が不便な為、賃貸アパート（7万円）に入居。
数年後、マイホーム購入を考え始めました。



まずは、間取りについての“夢・希望”とえば、

- ・家族がいつも集まり、話がしやすいように、広い居間が欲しい。
- ・子供たちと料理がしやすいように、台所はL字型にしたい・・・etc.

そして、いざ、具体的に考え始めると、

- ・今の年齢と年収で、無理なく購入できる物件価格（土地・建物）はいくらなのか？
- ・住宅ローンを組んで、ちゃんと返せるのか？ 頭金にあてる貯金はあまりない。
- ・子供たちが県内の国立大学に入ってくれば良いが、もし、県外の私立大学となれば、教育費・生活費等で、いったいいくらかかるのか？
- ・固定資産税がかかるのでやめておいた方がいいと言われたが、いくらかかるのか・・・etc.

わからないことだらけで、判断できず、なかなか決断できません。

仕事から帰ると、奥さんから、「ねえ、どうするの？」と問われる日々。

困った！なにを根拠に考えればいいのか？ わからないことだらけ・・・。

「今夜はもう遅い。明日も早いので、またにしよう。」

こんな毎日の繰り返し・・・。あっという間に10年が過ぎ去ってしまいました。

そして、そんなある日、A氏にこんな出来事がありました。以下は、A氏本人からです。

当時はアパート暮らしで狭いため、子供部屋はひとつでした。

ある日、仕事が遅くなり深夜に帰宅すると、高校受験を控えた長女が
アパートの狭い台所で、勉強をしていました。

「部屋が明るいと妹が寝づらいたらう」との思いで、そうしていたのでしょう。

私は一人涙しました。“長女の優しさ”と“私の不甲斐なさ”に。
なかなかマイホーム購入を決断できなかったのです。

そして、このことがきっかけとなり、ついに、「えいやー！」の思いで、決断をしました。
でも、「もっと早くに決断できていれば、・・・」と悔やんでいます。

なぜ、決断が遅れたのか。それは、“**判断材料**”が揃わなかったからです。

判断材料が整えば、もっと早くに決断ができ、返済計画もスムーズにいったのです。